

# 令和7年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立鈴西小学校

NO.

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学力向上×ICT活用</p>	<p>1 全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析し、授業改善をすることで、一人ひとりの学びの質の向上を図る。(各教科全国または県平均以上)</p>	<p>1○研修主題に「対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かい解決していく子の育成」を掲げ、職員全体で授業づくりに取り組んできた。3つの学年で算数科において公開授業を行い、授業の成果と課題を確認してきた。 ○全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析することで、鈴西小学校の弱みを明らかにし、授業改善につなげていくことを職員で共有することができた。 ○朝のモジュールの時間を利用して、考えの根拠がどこにあるのかを明確にし、叙述にもとづいて答える習慣をつけるため、読むよむワークシートに取り組むことができた。 ▲学校の授業はわかるに回答している児童が96.6%を占めているが、全国学力・学習状況調査の結果(全国平均との差:国語-4.8、算数-6.0、理科-4.1)としてあらわれてくるような学習の定着にはつながっていない。</p>	<p>1 分析で明らかになった、教科の弱み(算数:時計、分数、1あたりの数など、国語:自分の考えを制限字数内で表す力、問いを読み取る力など、理科:電気、実験器具の使い方など)をそれぞれの学年で強化していく。</p>	<p>1 ・明らかに子どもたちの弱みを改善するために職員全体で取り組んでいることがすばらしい。授業を大切にしていることもとてもよい。学調は、読解力と理論的に考える力が育っていないと難しい問題が多いと思う。 ・児童に寄り添った授業内容で結果の分析もされ、自主性を重視した取り組みが行われている。 ・学校で参観し、わからない子には、わかっている子が教えている姿を目にする。担任の先生は短い時間で教えることは大変だが、立ち歩く子どももおり、もう少しゆとりをもって授業できないかなと感じる時がある。 ・分析し、明らかになった弱みを改善していこうという思いに先生方の努力を感じ、感謝しています。 2 ・家でどんな学習をすればよいかわからない子もいると思う。「宿題をきちんとしている」が98%も占めていることはすばらしい。どんなことをすればよいか方向を示していけば伸びていく子たちだと思う。 ・教科の弱みを宿題等で繰り返し、行えるプリントがいいなと思った。(家庭学習強化週間で使用できたりするもの) ・予習の仕方がわからずできないのではないかと我が子を見ていて思う。 ・学校の授業だけでなく、家庭での復習も支援されている。家庭にて自主的に学習するには、保護者の協力が必要不可欠だと思う。 ・家庭学習習慣において、強制的にさせるのであれば、それなりの量を宿題として(特に復習)出し、時間をかけて勉強させてはどうか。自主的に予習、復習をさせる(期待する)のは難しいと思う。 ・学習について、学校・先生方の努力に基づき予習復習が向上してきているので続けていってほしい。</p>
	<p>2 学期に1回、家庭学習強化週間を設け、家庭学習の充実を図る。(肯定的回答 児童Q11 98%以上 保護者Q6 80%以上)</p>	<p>2○家庭学習強化週間については、家庭学習への意識を高めることができた。 ▲家庭学習強化週間が終わると、高まった意識が続かない。 ▲子どもアンケートより、「宿題をきちんとしている」に回答している児童は、98%を占めているが、2%の児童ができないと回答している。また、「家で予習や復習をしている」に回答している児童は、73.2%と低い。 ▲保護者アンケートにて「お子さんは、家庭学習をする習慣がついてきた」の回答に肯定的な回答が65.9%と低い。</p>	<p>2 家庭学習強化週間を続けながら、家庭学習ができない児童への支援と声掛けを続ける。宿題だけでなく、家庭での学習時間を設定させ、教科書を復習したり、ノートを見返したりすることを呼びかける。</p>	<p>3 ・家庭学習への支援と声かけの継続をできる限り続けてほしい。 ・学習時間を、量から質に視点に向けてみたらいかがでしょうか。例えば、1週間かけて1つの課題を完成させるなど、勉強が楽しいと思えるような活動をしてみたらいかがでしょうか。 3 ・年11回のチャレンジタイムがあるのはすごい。負担も大きいと思うが、学習に意欲的に取り組むようになったことにつながっていると思う。 ・チャレンジタイムにより個々の児童の不得手な分野(教科)の学習を行い、苦手を克服できれば、今後の意欲の向上につながり、良い取り組みと思う。 ・授業内容がわからないと言える環境を整えてほしい。チャレンジタイムに自主的に参加できる仕組み、わかるようになる、できるようになるように、大変ですが、指導をお願いします。 ・すごく良い取組だと思います。先生方の負担は増えてしまっていますが、保護者としては感謝です。 ・チャレンジタイムで伸びた項目等をさらに伸ばしてあげたい。</p>
	<p>3 放課後にチャレンジタイムを設け、個に応じた課題に取り組み、学力の向上を図る。(肯定的回答 児童Q2 95%以上 保護者Q2 90%以上)</p>	<p>3○年間11回のチャレンジタイムを設け、学年の学習にとらわれず、個に応じた課題に取り組むことができ、子どもたちは意欲的に取り組み、わかる喜びを感じることができた児童も多い。 ○少人数での学習形態でわからないところを聞きやすい環境ができた。 ○子どもアンケートより「学校の授業がわかる。」を1学期と比較すると、4.7%上昇傾向にある。 ▲子どもアンケートより、「学校の授業がわかる」にわからないと回答している児童が3.3%いる。一斉の授業で理解できないことによって、「家庭学習が取り組めない」(2%)、「あきらめないで考えられない」(8%)につながってしまう。</p>	<p>3 チャレンジタイムを続けながら、個に応じた課題に取り組み、学力向上を図る。現在の研修を進め、授業の中でも、個やグループなどで学習が進めていけるような授業展開を進めていく。</p>	<p>4 ・図書室がよく整備され、掲示物も子どもの興味を引きつけるものになっている。本の冊数ももう少しあればと思うが、予算的に難しい。 ・数に囚われていて、学年にあった本が読めているのかと思うことがある。(キャラクターの本は読書なのか?) ・貸し出し冊数の目標にどうしてもなると思うが、”数より中身”、読んだ後の感想などが重要だと思う。数値で表すのは難しいが。 ・図書館の本を読むことの活動を積極的に行うことは大変良いことだと思います。しかし、扱う本の量が少なすぎないでしょうか。予算もありますが、毎年児童にアンケートを取って、本を増やすことはできないでしょうか。 5 ・一人1台PCがあることは羨ましい。どのように活用していくのか研修が進むことを期待している。</p>
	<p>4 図書巡回指導員を活用しながら読書活動を充実させ、貸出し冊数を低中学年1人当たり50冊以上、高学年1人当たり40冊以上を目指す。</p>	<p>4○図書巡回指導員による授業を、各学年2回以上実施できた。その時間に紹介された本を図書館で探す姿も見られた。巡回指導員からも積極的に声掛けを行うことで、全校で見ると一人50冊以上の貸し出しは達成できた。 ▲高学年は図書の時間を確保することができず、40冊以上の貸し出しの達成が難しい学年もあった。</p>	<p>4 図書巡回指導員の授業を通して、図書館へ足を向ける児童が増えたので、来年度も図書の授業年間2回以上の実施を目指して、巡回指導員と連携をとりたい。高学年の積極的な図書館利用については、朝学の活用も含めて、引き続き取り組みたい。</p>	<p>6 ・児童が、Chromebookを駆使し、サーチ学習などを行い、活用できている。児童が互いに相談でき、雰囲気も良く授業ができています。 ・ICT活用は、先生方個人でその活用方法・仕方を考えて実行するのは大変だと思います。見本をしっかり身につけて進めてください。 ・ICT機器活用による文字離れ、視力低下等を防ぎつつ、学力向上になれば良い。 6 ・ICT機器の活用について、学校・授業等では、活用されていると思われるが、家庭に持ち帰ってきて、家庭では次の日の予定を確認するのみである。このためだけに重い機器(パソコン・タブレット)を持ち帰る必要があるのか疑問。</p>
	<p>5 日々の授業の中で児童の一人一台パソコンを活用し、学びの質を高め、教育効果を上げる。(肯定的回答 児童Q9・Q10 90%以上 保護者Q5 85%以上)</p>	<p>5▲児童アンケートの「クロームブックや授業など、学習で使っている」の肯定的な回答は1学期98.0%から2学期95.3%と下降した。 ○保護者アンケートの「お子さんは、クロームブックを使った学習に楽しく取り組んでいる」の肯定的な回答は90.9%と90%以上の数値であった。</p>	<p>5 今後もICT機器を使って教育を行っていくが、あるから使うのではなく、必要に応じて活用できるように今後も研修を重ねながら、教育効果を上げていきたい。</p>	<p>子どもたちは、まず健康づくりが一番だと思うが、いつも健康診断結果を聞き、注意すべき点があれば学校・保護者との話し合いが必要。これからも子どもたちの成長につながっていくので続けていってほしい。</p>
	<p>6 ICT支援員(※2)を活用して教員の研修を行うことで、教職員のICT活用能力を高め、ICT機器(※3)の特性を生かした授業を工夫する。(肯定的回答 教員100%)</p>	<p>6○ICT支援員さんの活用研修を受けた。算数科での授業活用、児童のプログラミング能力向上、運動会の音源作成など、様々な場面で活用できることを教えていただき、手助けしていただいた。</p>	<p>6 今後も、子どもたちの能力向上のために、ICT支援員さんと連絡を取りながら、ICT機器の特性を生かした授業を行っていく。</p>	<p>子どもたちは、まず健康づくりが一番だと思うが、いつも健康診断結果を聞き、注意すべき点があれば学校・保護者との話し合いが必要。これからも子どもたちの成長につながっていくので続けていってほしい。</p>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
長期欠席対策	<p>1 学級づくり・仲間づくりを進め、一人ひとりの学校での居場所をつくることで、不登校の未然防止に努める。 (肯定的回答 児童Q1 90%以上 保護者Q1 85%以上 肯定的回答 児童Q15 95%以上 保護者Q7 85%以上)</p> <p>2 日常生活の様子が気になる児童の情報を全職員間で共有する機会として情報共有会議を開くとともに、必要な支援を早期に行い、一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりに取り組む。</p> <p>3 全校の欠席者を毎日一覧表に記入することで、欠席が続いている児童を明確にし、児童の変化に気づき、支援できるようにする。</p> <p>4 家庭との連絡をこまめにとり、情報を共有し、学校でできる支援を行い、不登校にならないように未然に防ぐ。(肯定的回答 保護者Q13 90%以上)</p>	<p>1○人権や道徳の授業を基盤とした学級づくり・縦割り班活動等による仲間づくりを進め、一人ひとりの学校での居場所をつくることで、不登校の未然防止に努めた。 ▲児童アンケートの「学校に通うことが楽しい」の肯定的な回答は、1学期93.2%から2学期は87.9%と低くなっている。 ○保護者アンケートの「お子さんは学校に通うことが楽しい」の肯定的な回答は93.7%である。 ▲「お子さんは、自分のことに自信を持っている」の肯定的な回答は79.0%と低くなっている。</p> <p>2○日常生活の様子が気になる児童の情報を職員間で共有する会議を月1回開いた。必要な支援を早期に行い、一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりに取り組んだ。</p> <p>3○全校の欠席早退者を養護教諭が毎日一覧表に記入することで、欠席が続いている児童を明確にし、児童の変化に気づき、支援できるようにした。</p> <p>4○欠席が続く場合は、こまめに保護者と連絡を取り、情報を職員全体で共有することができた。場合によってはケース会議を行い不登校にならないように努めることができた。 ▲12月時点で10日以上欠席者は、令和6年度17人から令和7年度18人と1人増加しているが、風邪などの体調不良や家事都合の欠席により10日以上欠席となる児童がほとんどである。欠席が続く家庭には、担任が連絡をしたり家庭訪問をしたりしている。 ▲30日以上欠席者は3人である。不登校気味の児童は、スクールカウンセラーの活用や関係機関と連携し、担任の取組により登校できるようになった。今後も同様の取組を継続する。</p>	<p>1 不登校の未然防止、いじめの早期発見のために、担任を中心に児童との関係づくりを今後も行っていく。</p> <p>2 定期的にケーススタディを実施し、不登校児童を生まないための学級づくりについて全職員が学習する機会を設ける。</p> <p>3 児童の様子の変化により早く気づくために、家庭と連絡を取り合いながら保護者と協力して児童を見る。</p> <p>4 状況によっては学校だけでの対応は難しい場合があり、その際は保護者と関係機関をつないでいく。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の人数が少なく、友達が固定化されることがある。縦割り班によって学年を越えた仲間づくりができてよい。</li> <li>・登校時には集団行動だが、低学年の児童を統括できていない時がある。上級生が下級生に対して安全を指導できていない。</li> <li>・大変デリケートで難しい問題。学校全体で児童の変化に常にアンテナを張り、今後も長期欠席者がゼロになるよう取り組みの継続をお願いします。</li> <li>・学校内に別室登校できる環境を設置しても良いと思う。</li> <li>・朝、時間がある時にあいさつ運に行く。毎年、少子化で子どもたちの数が少なくなってきたが、いつも元気よく「おはようございます」と声が。この時、自分も元気に1日頑張ろうと思う。</li> <li>・「学校に通うことが楽しい」の児童アンケートについて、1学期から2学期で5.3%減となっている。時を経るごとに仲間とのつながりが期待される場所であるので、今後、3学期での児童の受取りが少々気がかりである。</li> <li>・登校への心理的ハードルを下げる工夫が見られる。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員でのケース会議を早期に実施できていることはすごいと思う。</li> <li>・教職員間で児童理解が深まり、支援の方向性を共有できる点は高評価。</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけではなく、家庭に帰ってからのトラブルから来られなくなっていることがあったり、誰かに話したら余計に目をつけられるのではないかと不安になってしつたりするとなかなか一歩が踏み出せなくなるのでは、と思う。(友人間トラブルの場合)</li> <li>・家に帰ってからの状況は、学校側は把握しにくいと思う。今は塾に行くなど目に見えないところでの行動が色々ある。この中でいじめ等は見つけにくい。また、子どもが少なくなってきた中で、見つけられるようで見つけにくい社会だと思う。学校と地域がもっと連携をとる社会なのかも思う。</li> <li>・電話連絡等を通して、保護者との関係づくりをすることは、とても良いと思う。</li> </ul> <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強についていけないなどの理由であれば、復習教材を強化していただく必要があるのかもしれない。</li> <li>・学校と保護者との連携があり、より緊密な対応に腐心している。</li> <li>・30日以上欠席者について、前年度1人から2人増えて3人となり、気になる場所であるが、関係する皆さんの取組で登校できるようになったのならば、大変良いと思う。</li> <li>・必要に応じ、外部機関と連携すること、賛成します。</li> <li>・普段の先生方の努力に感謝いたします。周りを見ても、年々、不登校の子供たちの話を聞くことが増えているように思います。学校に行くことが、1学期から2学期に向けて低くなっていることは友達関係なのでしょうか、親の情報の間違いなののでしょうか。労働時間に問題がありますが、根気よく、先生方に家庭訪問していただけたらと思います。また、保護者に学校へ来ていただくことも。</li> </ul> <p>2～4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる児童、欠席が続く児童について教職員で共有し、対処しているのがよい。家庭との連携はとても大切。</li> </ul>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
非認知能力育成	<p>1 自力解決、意見交流、まとめ、振り返りという流れで日々の授業を行い、あきらめずに粘り強く取り組む姿勢を育てる。(肯定的回答 児童Q6 95%以上)</p> <p>2 児童の自己肯定感を高めるために、日々の授業や学校生活の中で教師からも周りの児童からも認められる場面をつくる取組を行う。(肯定的回答 児童Q16 98%以上 保護者Q8 80%以上 Q12 80%)</p> <p>3 道徳の学習や人権教育を通して学校やクラスのきまりを守り、正しいと思うことをする姿勢を育てるとともに、それを実行できる場面を設定する。(肯定的回答 児童Q18 98%以上 保護者Q1 85%以上 肯定的回答 児童Q15 95%以上 保護者Q11 85%以上)</p>	<p>1〇年間に3回の公開授業を行い、あきらめずに粘り強く取り組むために、課題を工夫したり、スモールステップで授業展開したり、前時までの学習のポイントを掲示したり、粘り強さを高めていけるような取組を行うことができた。 ○子どもアンケートより「むずかしい問題でも、あきらめないで考えようとしている。」の回答に91.9%がわかると回答している。 ▲1学期と比較すると、子どもアンケートより「むずかしい問題でも、あきらめないで考えようとしている。」の回答が3.4%下がっている。 ▲学習の理解に差があり、理解の定着に時間を要する児童たちが学習に主体的になれるような取組や粘り強さを高める取組がむずかしい。</p> <p>2〇児童アンケートの「わたしは得意なところやよいところがある」の肯定的な回答は、1学期93.9%から2学期は95.3%と上昇している。 ▲一方、保護者アンケートの「学校は、子どもが自分のことに自信が持てるように指導している」の肯定的な回答は、93.4%に対して「お子さんは、自分のことに自信を持っている」の肯定的な回答は79.0%と低くなっている。</p> <p>3〇児童アンケートの「交通ルールや学校の決まりを守っている」の肯定的な回答は、1学期95.9%から2学期98.0%と上昇している。 ▲一方、「クラスのなかまは、私のよいところやがんばりを認めてくれる」の肯定的な回答は、1学期95.3%から2学期93.3%と下降している。 保護者アンケートの「お子さんは、学校へ楽しく通っている」の肯定的な回答は93.7%、「学校は、子どもに豊かな人間性をはぐくんでいる」の肯定的な回答は96.4%とどちらも90%以上の数値となった。</p>	<p>1 子どもたちの実態から、あきらめずに粘り強く取り組む姿勢を育てるための研修を進めていく。授業の中で、子どもたちに、あきらめずに取り組む方法を具体的に示していき、行動を価値化していく。</p> <p>2 学校では自信を持っている児童は多いが、保護者の前だとなかなか出せないのが現状であると考えられる。</p> <p>3 きまりを守ることは学校生活にも慣れ、守ることが出来てきた一方、人間関係においては、認めてくれる数値が下降している。道徳や人権授業だけでなく、PMCカードや人権教室などを活用して、学校全体として一人ひとりの違いを認め合い、安心して生活できる学校を作っていく。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困難なことに会うとすぐに諦めてしまう子が多い中、鈴西小の子は粘り強く取り組んでいる子が90%以上である。やればできるという経験が多く、自信を持っているからだと思う。</li> <li>・諦めずに取り組むために家庭でも、どのようにサポートしていけばいいか考える必要がある。</li> <li>・一人一人が諦めず、粘り強く取り組むように、大変力がありますが、具現化してください。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者には、子どもへの期待感が強く、自信を持っているとは思えないのではないか。どんどん担任や学校が良いところを発信することで気づかせてあげてほしい。</li> <li>・具体的な内容がわからず判断しがたい。</li> <li>・子どもが学校で見せる自信と保護者が見る子ども、やっぱり親に甘えたい、応援してほしいと感じているのかな。</li> <li>・学校では、自信を持っているので、それを保護者に伝える会を作ってみたらいかがでしょうか。</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認めもらえる数値が下降することは、友人関係への影響はないのか気になった。</li> <li>・アンケート結果に敏感になりすぎではないでしょうか。</li> </ul> <p>・子どもアンケートの中からは学校に対して先生方の指導がとても良いように感じられる。「楽しい」「授業がわかる」「自分で考えることが楽しい」等々、良い結果が出ている。</p>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
地域連携	<p>1 授業参観や学校行事等の学校公開を適時実施し、本校の教育活動について、保護者や地域の方の理解を深める。(肯定的回答 保護者Q14 90%以上 保護者Q15 95%以上)</p> <p>2 学校だよりや学校運営協議会、PTA会議等で、積極的な情報発信を行う。(学校だより月2回以上)</p> <p>3 地域・外部人材の有効活用と、社会に開かれた教育課程の実現を進める。学習ボランティアを活用し、読み聞かせや学習での協力を得て、学習効果を高める。(読み聞かせボランティア月2回、図書館支援員の活用)</p> <p>4 保護者・地域と連携した安全・安心の取組として、「ながら」見守りを進める。</p>	<p>1 ○今年度は年2回の授業参観、運動会、森のまつりを保護者や地域の方に見ていただくことができた。(保護者アンケート Q14 93.7% Q15 95.2%)</p> <p>2 ○学校だよりを12月末現在で23号発行し、発行したたよりはホームページにも掲載した。また、ホームページでは学校運営協議会の報告も掲載している。</p> <p>3 ○学習ボランティアを活用し、調理実習、裁縫、図画工作の補助、読み聞かせ、図書環境整備、生活科や総合的な学習の時間の講師や補助、運動場環境整備等、さまざまな支援をしていただくことができた。また、5・6年生の縦割り班でのお茶についての探究学習や2・3年生の地域学習、3・4年生の地域防災学習、5年生の稲作体験では、地域の方々の協力をいただき、より深い学びを実現できた。 ○今年度から実施の鈴峰中校区4小学校合同自然教室では、ドラム缶かまどの作成や飯盒炊爨の支援をしていただき安全に活動することができた。</p> <p>4 ○地区市民センター等を通して地域の方々に「ながら」見守りに登録していただき、子どもの見守り活動をお手伝いいただくことができた。</p>	<p>1 今後も学校公開を定期的に行い、子どもの様子を参観できる機会を確保する。</p> <p>2 学校だよりや学年通信では、行事や業務連絡だけではなく、子どもたちのがんばっていることや日常生活での良かったことなどを積極的に保護者へ伝えてきた。今後も学校の状況が伝わるよう内容を工夫していく。</p> <p>3 地域や外部の人材を活用した授業を今後も継続して行う。学習ボランティアの方々には、学習のみならず、登下校やプールの見守り等安全にもご協力いただけた。来年度も引き続き多様な場面での協力を仰ぎたい。</p> <p>4 今後も市民センター等を通じて「ながら」見守りボランティアを知らせ、多くの方に登録いただけるよう地域に伝えていきたい。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や運動会では子どもたちが、のびのびと一生懸命活動していた。参加させていただくことが、一番、学校理解につながると思う。保護者も安心し、期待をもって学校へ送り出していることと思う。</li> <li>・授業及び行事への参加機会は多く、開放的となっている。</li> <li>・子どもたちの給食時の様子も気になるので、参観等で見られたらと思う。</li> <li>・子どもの様子を見られる機会が増え、感謝しています。</li> <li>・運動会について、「来賓席に向けてのよさこいダンス、保護者に向けての比率を上げてほしい」との声があります。</li> <li>・地域の活動に参加する子どもたちは決まっているため、市民センター等と連絡を取り、地域の活動に積極的に参加するように働きかけてはいかがでしょうか。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真入りで、子どもたちの活動の様子がよく分かり、とても良い。</li> <li>・ホームページのアピール不足。地域の方々には、ほとんど知られていない。回覧等でQRコード掲載でアピールしてください。</li> <li>・学校だより「しいの実」を見て、子どもたちの学校の様子(勉強・運動会・修学旅行・森の祭り等)文字ばかりでなく、写真入りで素敵見やすく感謝している。</li> <li>・地域連携のためには「学校だより」は重要であり、地域の人々に学校の課題・状況等を周知させる手段として、今後も様々な情報を提供してほしい。</li> <li>・学校だより「しいの実」作成ありがとうございます。保護者以外にも回覧してもらっているので、地域で情報共有できています。</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域体験学習を通して、地域のすばらしさを実感し、地域の人々との交流が進んでいる。自分の住んでいる地域に誇りをもてる子に育ててほしいと思う。</li> <li>・今年度はミラー設置のために、地域の方々に助けられたので、今後も密に情報交換をすることができるよう動いていく。(PTAも一緒になって)</li> <li>・ボランティア募集も情報が、地域の方々まで伝わっていない。詳しい内容が分かれば、もっとたくさんの方が協力していただけるのではないかと。</li> <li>・体験学習及び児童が独自で調査等の学習を行う環境を整えられた地域の方がいて、活動が充実している。</li> </ul> <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区によって地域の方の見守り活動(人数)に差が見られる。ながら見守りボランティア、もう少し校区内で周知できればいいと思います。</li> </ul>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
学校における働き方改革	<p>1 抜本的な業務縮減として、学校行事の精選と業務の平準化を行う。</p> <p>2 ICTを活用した業務改善(会議のペーパーレス化、情報共有、出席簿管理、通知表、指導要録、アンケート等)を行う。</p> <p>3 QOL(※4)を向上させ精神的ゆとりをもって職務に臨めるように月2回の定時退校日を設定し、達成できた職員の割合90%以上を目指す。</p> <p>4 学習ボランティア、スクールサポートスタッフ(※5)、学習指導員(※6)の効果的活用により、職員全員の時間外勤務を月45時間、年360時間以内を目指す。</p> <p>5 業務の効率化により時間を生み出し、児童と触れ合う時間を多く取れるようにすることで、児童理解を深め、よりよい学級経営・学校経営を目指す。</p>	<p>1 ○学校行事については、児童の実態や職員数などの現状にあわせて実施方法を検討することにより、適正規模で実施することができた。また、業務の平準化についても、進めることができた。</p> <p>2 ○ICTの活用により業務改善が進んだ。保護者への連絡や保護者からの欠席連絡等にアプリを活用した。学校と保護者間での連絡が円滑に行うことができた。</p> <p>3 ▲定時退校日に達成できた職員の割合は87%だった。 ○学期初、学期末に短縮日課や午前のみ日課を設定し、教員の教材研究や事務処理の時間を確保した。</p> <p>4 ○12月末時点で全職員、月45時間以内に収まっている。ひと月あたりの平均時間外労働時間は16.9時間だった。スクールサポートスタッフが印刷や掲示物の作成等の業務を担うことで時間外勤務縮減につながっている。 ○学期初、学期末に短縮日課や午前のみ日課を設定し、繁忙期における時間確保をしたことが、時間外勤務の削減につながった。</p> <p>5 ○業務の効率化により生み出した時間を、児童理解、教材研究、心身のリフレッシュにあてた。児童の学校生活も落ち着き、安定した学級経営・学校経営ができた。</p>	<p>1 行事については来年度に向けさらに見直しを進めていく。また、業務の平準化についても、次年度へ向けた会議の中でできる限り努めていきたい。</p> <p>2 ICT機器の活用方法について学び、今後もさらに効率を上げていきたい。</p> <p>3 来年度も定時退校日の取組だけでなく、日常的にも勤務時間内に業務を終えて退勤できるよう業務の見直しや改善、短縮日課の設定等を行う。</p> <p>4 スクールサポートスタッフの有効活用を今後も継続する。業務の分担や改善を図ることで仕事の効率を上げ、教育活動の質を保ちつつ時間外労働の縮減を進めていく。また、学年初、学期末の短縮日課や午前中日課の設定をし、今後も時間確保に努めていく。</p> <p>5 業務の効率化により生み出した時間を有効活用し、教員の人間力を高め、教育活動の質の向上へとつなげることを継続していく。</p>	<p>1 PTAでも行事ごとのサポートを継続していく。</p> <p>2 ICTの活用によって、効率化が図られることは、とても良いこと。教員の負担が減ることにより子どもたちとのふれあいや教材研究等の時間が増えることはとても良い。 ・クラスルームの使用も保護者や家族には共有できているが地域の方や運営協議会に参加いただいている方にも共有できたらいいと思う。 ・我々にはなかなかついていけません、デジタル化を推進してください。効率よく、時間活用ができるようにして行ってください。 ・ICTの活用については、現在進行中の部分もあると推測されますが、このこと自体が極端な負担増に繋がらないよう期待します。 ・最新技術、システムを使い、少しでも負担が軽くなればと思います。</p> <p>3 先生方には、心穏やかに授業等を行ってほしい。</p> <p>4 スクールサポートスタッフや学習指導員の制度ができたことは良い。学習指導員の週2時間をもっと増えると良い。 ・スクールサポートスタッフでもできることは、継続して行っていただけるのは良いことだと思う。 ・教職員の方の努力に感謝いたします。全ての業種において、働き方、残業問題を抱えています。ボランティア活動に、もっともっと参加できるように努力したいと思います。</p> <p>5 書類の作成等も削減、または簡略化できないでしょうか。</p>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
生徒指導	<p>1 あいさつ運動を実施し、90%以上の児童が自分から元気な声であいさつできるようにする。(肯定的回答 児童Q17 98%以上 保護者Q9 85%以上)</p> <p>2 いじめゼロを目指すとともに、いじめアンケートを年3回実施し、早期発見に努め、早期対応を行う。(いじめアンケート いじめ0件)</p> <p>3 一人ひとりの違いや特性、個性への理解を深める授業を行い、安心できるクラスづくりを推進する。</p> <p>4 子ども理解会議と校内支援会議(年間35回以上)の充実を図る</p>	<p>1 ○児童会を中心にしてあいさつ運動を行い、あいさつの大切さについて啓発することができた。児童アンケートの「友だちや先生、近所の人に自分からあいさつしている」の肯定的な回答も、1学期95.3%から2学期は97.3%と上昇している。 ▲一方、保護者アンケートの「お子さんは、あいさつしている」の肯定的な回答は、昨年度87.8%から今年度は81.0%に下降している。</p> <p>2 ○全職員でいじめアンケートの実施と結果の共有に取り組むことができた。アンケートにより発覚したものは、いじめ防止対策委員会で迅速かつ丁寧な対応を行うことができた。また、未然防止として日々の児童観察を丁寧に行い、教師間の情報交換を積極的に行うことができた。 ▲重大事案にはなっていないが、相手への配慮が欠け、悪口や暴言等につながる事案もあり、継続して指導していく必要がある。 ▲自分の思いを適切な言葉で伝えられないことによるトラブルの事案があるので、あらゆる活動を通して、相手に考えを伝えられるよう指導を重ねる必要がある。</p> <p>3 ○年に2回、仲間づくりについて研修を行っている。担任が仲間づくりについてクラスの様子を分析し、成果と課題についてレポート作成を行い、そのレポートを全職員で共有し、検討する機会を設けている。 ○子どもたちが一人一人の個性を認め合えるように、道徳や学活の授業の中で呼びかけ・指導を行うことができた。今年度は1・3年生で人権教室、6年生で人権公開授業を行うことができた。また、2年生以上の学年ではPMCカードに取り組んだ。また、校区の人権フォーラムの課題である「偏見」をテーマに学校全体に還流することができた。</p> <p>4 ○支援会議については、個人懇談会を活用しながら適宜行うことができた。子ども理解会議については、月1回の職員会議の際に、全校で情報共有の時間をとることで職員間で子ども理解を深めることができた。今年度については、緊急の子ども理解会議を行う必要性はなかった。</p>	<p>1 学年や相手を問わず、誰にでもあいさつできる習慣を身につけさせるために指導を行っているが、家庭へも協力を呼びかけるように努める。また、放送委員会でも朝の放送で呼びかけを行っているように、あいさつ運動をより広めていく。</p> <p>2 今後もいじめ事案は担任だけでなく、いじめ防止対策委員会で組織的に早期対応に努め、未然防止に努める。</p> <p>3. 今後も校内研修や校外の研修へ参加し、子ども理解に努め、よりよい集団作りに努める。人権授業や、ポジティブメッセージカードの活用、人権擁護委員を招いた人権教室などの取り組みを行い。学校全体を通して、人権感覚を身につけさせ、安心できるクラスづくりに努めていく。</p> <p>4 今年度も、いじめや差別事象があった際、速やかに対策委員会を開く等、初期対応を迅速、丁寧に行った。今後も必要に応じて迅速に対応できる体制を継続していく。</p>	<p>1 ・鈴西小の子は道で会っても挨拶してくれる。中学生になっても挨拶してくれるので嬉しい。挨拶は、まず教師や親がお手本だと思う。 ・恥ずかしがって挨拶をしない時の声かけの仕方が難しいと思う。 地区の子どもでもおかえりとこちらが言っても帰ってこないことが多い。 ・大部分の児童は、登校時のみならず、日常的に挨拶ができています。 ・長年にわたる成果だと思います。登下校時に大きな声で挨拶をしてもらおうと、こちらは大変気持ちが良いです。続けていってください。 ・登校の挨拶、いつもしていただいている中、しない子どもの顔は決まっている。家庭では、していないのだと思っている。でも鈴西の子どもは、下校でも「おかえり」と挨拶すると「ただいま」と声が返る。とても気持ちが良い、嬉しい。 ・びっくりするほど、挨拶してくれます。挨拶運動のおかげで楽しい1日になります。</p> <p>2 ・家庭で、学校で、子どもたちの会話が少なくなり、適切な言葉遣いがわからないのではないかと。単語で済ますことが多く、丁寧に自分の言葉で話す機会を多く取ってほしい。 ・一人一人の特性ではあるが、口調がきつめの子に対しての声かけの仕方がわからない。逆に消極的な子に対するサポートも難しい。声をかけるべきか、様子を見るべきか。 ・事例を説明されないと理解しがたい。 ・いじめに関して、担任だけだと追い詰められていくので学校・教師として、たくさん話し合っていくことは素晴らしいと思う。色々な考えが出て、解決が早くできると思うので対応してほしい。防止策も必要。 ・いじめアンケート0件を目指した結果、何件かあったと推測される。それらについては、いじめ防止対策委員会で対応し、指導もされたようだが、実際、何件の指導案件があったのかは知りたいところでもある。 ・引き続きよろしくお祈りします。</p> <p>3 ・子どもたちが笑顔で学校生活を送れるよう先生方が頑張ってくださいていることがよく伝わってくる。色々な個性をもったどの子どもも大切な大切な子だ。健やかに育ってほしい。 ・校区の人権フォーラム前に校内の人権学習の様子も見られたら良いと思う。(自校の子どもの意見と他校の子どもの考えを知ることができるのと大人の予習として) ・人権フォーラムでの水平展開を実施している。</p> <p>4 ・問題が大きくならないうちに早期に発見し、対策を講じている。情報共有も全先生で行っており、この体制を継続してください。 ・先生方には負担をかけますが、よろしくお祈りします。</p>